

高知工科大学学位授与式式辞

本日、高知工科大学の学位を取得された学士四〇二名、修士一〇〇名ならびに博士二八名の皆さん、本当におめでとうございます。また、ご臨席いただきました皆様方をはじめ、全てのご家族に対しましても、心からお祝い申し上げます。

皆さんは本日卒業を迎えました。二年前、三年前あるいは四年前、なかにはそれ以前に、本学に希望を持って入学され、多くのことを学び、今日この日を迎えられるました。この間、ご家族や周りの多くの方々の支援があったことと思います。この機会に感謝の念を新たにすることも大切なことと思います。

これからの時代に活躍できる人間となるには、「体系的な思考」ができることが大切です。体系的なシステム思考ができることは問題解決に大きな力を発揮します。国際語としての「英語」と、高度情報社会に不可欠な「情報処理技術」とを身につけることも必要です。「自己学習能力」や「豊かな人間性」の涵養はいかなる社会においても必要なものです。この大学では

これらのことすべてを教育の中心におく努力を続けています。卒業は、また「始まり」です。人間はその一生をかけて自己の成長を図るものですが、若い時期における蓄積ほど効果の大きいことはいうまでもありません。「ローマは一日にして成らず」といいます。何事も多大な努力を継続して行わなければ

成し遂げられない、という意味です。作家塩野七生さんは「ローマ人の物語」のなかで「後にローマが大をなす要因のほとんどは、ローマ建国から始まって第一次ポエニ戦役直前までの五

百年に芽生えはぐくまれたのである。青少年期になされた蓄積が、三十にして立つときに初めて真価を問われるのに似て」といっています。

高知工科大学では、この人生の大事な青年期に、自ら問題を発見し、目標を定め解決するという自発性や創造性に富む思考ができるように、またその中で、科学技術だけでなく、人や社会にとって何が本当に必要なのか考えられる人間になってもらえるようにと、教育をしてきました。皆さんはこのような力を、十分に身につけているはずです。本日、卒業するのは、その証であり、新たな「始まり」でもあるのです。

これから、皆さんの進む道は様々ですが、この大学で学んだこと、友人や教職員に囲まれて過ごした時間を誇りとし、自身を高めたいってください。自分自身の個性を伸ばすことで、自分ができることを思い煩うのではなく、自分が得意な分野を存分に活かしていただきたいと切に願っています。

本学は一九九七年に創立され、ようやく九年目を終えようとしています。この大学でも更なる成長を続けなくてはなりません。大学の評価は、卒業生の活躍に依存します。卒業しても本学で学んだという縁は消えるものではありません。皆さんはこれから私たちとともに成長していくのです。

皆さんの前途は無限です。これからの活躍を心から願って、式辞といたします。

平成十八年三月二十日

高知工科大学

学長 岡村 甫